

近畿大学理工学部土木工学科 学生員○増馬 優樹

近畿大学理工学部 正会員 久 隆浩

1. 研究の背景と目的

京都市都心部にある「職住共存地区」は、職住共存の形態を維持しながら長らく京都の都市活力の中心となって支えてきた。しかし近年の社会情勢の変化を受け、業務集積の進行や土地利用転換、高度利用の圧力などの影響により産業の空洞化だけでなく、伝統的町家と高層建築物が乱立するといった街並の混乱を招いている。本研究では、「職住共存地区」における生活環境の改善の一考察として、地区に残存している“京老舗”の活用形態に着目し、販売形態と外観様式の関係を明らかにすることを目的とする。

2. 調査の概要

1) 老舗の定義

本研究では京都府が昭和43年以来毎年実施している「京の老舗表彰」で表彰された老舗店舗を対象とした。老舗とは、「同一の業種で100年以上にわたり府内に主たる事業所を有して営業を継続している者又はこれと同等の業歴を有する者として知事が定める者で、家業の理念を受け継いでいるものであること。」としている¹⁾。

2) 調査対象地区

北は御池通（一部夷川通）、南は五条通、東は河原町通、西は堀川通に囲まれた碁盤の目状に町割された商業地域で、幹線道路に面した部分を除く容積率の上限が400%で高さ制限が31m、面積が約130haの地区である。

京都市はここを「職住共存地区」と位置づけ、住民の交流や文化発信、都市産業の再生を目指している。

3) 調査の方法

表彰リストにより抽出した対象地区内の老舗店舗225軒において、所在地の確認をし、実地調査（平成13年度）にて各店舗に対して外観様式・建物階数・店頭販売形態の調査を行った（図-1）。

京都の商業を支えてきた“京老舗”に焦点をあてることにより、老舗店舗による街並形成の役割を明らかにし、今後の街並のあり方について考察する。

3. 京町家について

京町家の外観様式は基本的に街路沿いに軒形状が見られ、平屋・中二階建て・二階建ての構造となっている。現在残っている京町家の原型は江戸時代中期であるとされている。京町家の基本構造を見ると、街路に面する部屋は店の間と呼ばれ、商売をするためのスペースとして設けられている。ここで商売することにより街路を往来する人々が集まり、街は賑わいを見せていた。ここに老舗店舗の原点を見ることができる（写真-1）。

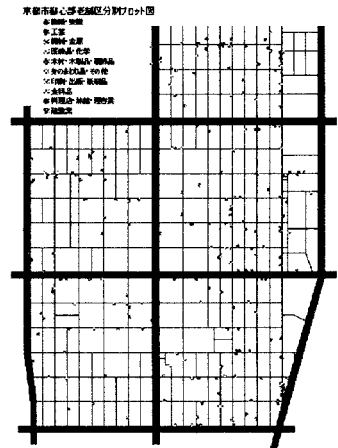


図-1 老舗所在地分布図



写真-1 京町家の外観様式

4. 調査結果

1) 位置区分と業種

区分別の老舗店舗軒数を見ると、繊維・染織関係が最も多く全体の24%で、次いで工芸関係(22%)、食料品関係(17%)と続いた。織物や和菓子など伝統産業に関する業種が多く見られた。

立地所在地では、繊維・染織関係は祇園山鉾町がある室町通や新町通周辺に、木材・木製品・装備品関係は家具屋街である夷川通周辺、食料品関連は錦市場のある錦小路通周辺にそれぞれ多く見られた。各地域とも、老舗表彰は受けていないが同業の関連した店舗で形成されている地域である。また、三条通や寺町通、松原通など老舗店舗が集積している地域には商店街が存在し、商店街形成の基礎となっていたと考えられる。

2) 外観様式からの視点

外観様式と店頭販売形態の関係を見ると、軒付建物と分類している主に町家を中心とする木造建築物で店頭販売を行っているケースが約37%と最も高い割合を示していた。また方型建物と分類している主にビル等の軒形状が見られない建築物では店頭販売を行っている店舗数と行っていない店舗数がほぼ同等なのに対し、軒付建物では店頭販売を行っている店舗の方が多い(図-2)。

3) 建物階数からの視点

建物階数と店頭販売形態の関係を見ると、2階建て以下で店頭販売を行っているケースが約41%と最も高い割合を示していた。また方型建物では店頭販売を行っていない店舗の方が若干多くなっているのに対し、軒付建物では店頭販売を行っている店舗の方がかなり多くなっていた(図-3)。

5. 考察

外観様式と建物階数どちらの視点から見ても京町家様式の老舗店舗で店頭販売が行われているケースが多かった。このことにより町家様式の老舗店舗は現在でも十分活用できることがわかった。そして昔ながらのスタイルで街並を形成するためのシンボリックな存在となり得て、街の中心となりコミュニティの核となり希薄化している住民関係の橋渡しとなることが期待される。今後は新しい形の街並形成として高層化と街並景観の融合が求められ、職住が共存する街並の現代型の姿を模索することができると思われる。

《参考文献》1) 京都府「京の老舗表彰」2) 京都市「職住共存地区整備ガイドライン」3) 尹 孝鎮・三村 浩史・リム ボン「京都市中心部の老舗にみる伝統的町家様式のイメージ及び利用評価に関する研究」第27回日本都市計画学会学術研究論文集 p. p643~648

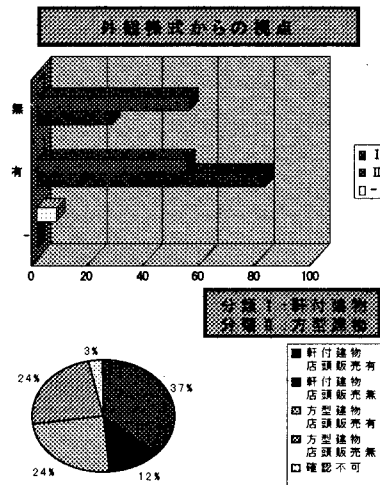


図-2 外観様式と店頭販売の有無

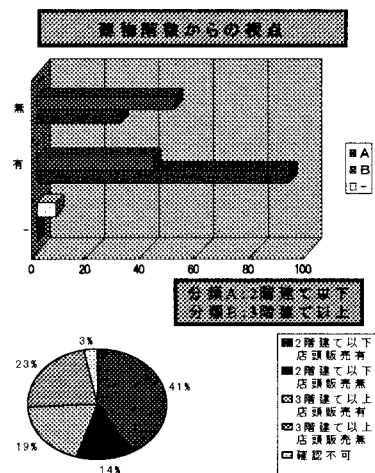


図-3 建物階数と店頭販売の有無